

# 防犯に配慮した 災害時避難所の運営ガイドブック



【解説】災害は突然やってきます。不安な気持ちを抱えて集まる避難所。でも、そこはみんなで支え合う大切な居場所でもあります。長期化しがちな避難所生活の安全安心を守るために「犯罪機会論」という考え方を取り入れ、物理的な環境と、一人ひとりの「ちょっとした心がけ」を組み合わせることで、みんなの安心を守る大きな力になります。ポイントは「入りにくくて、見えやすい」環境を作ることです。

## 1. 顔が見える安心のスタート

避難所の入口は、まちの玄関。出入り口は1箇所にかため、「入りにくい」避難所に。不審な人が紛れ込む不安を軽減しましょう。全員が名札を携行する、受付で名前や顔を確認することなどによって、「見えやすく」することも大切です。

P1

## 2. 入りにくく・見えやすい空間をつくる

居住スペースは、外部の人は立入禁止。「入りにくい」場所にします。パーテーションや番号は、プライバシーを守るだけでなく、「見えやすい」動線づくりにも役立ちます。トイレは男女で別の場所、女性用更衣室も設置します。

P2

【解説】避難所の入口は1箇所に限定し、夜間は鍵をかけましょう。受付で、避難者だけでなく、ボランティアなど外部から来た人の本人確認も行うことが大切です。居住エリアと外部の人が入れるエリアを分け、「関係者以外立ち入り禁止」と案内することで、守るべき範囲をはっきりさせます。顔を見合わせて挨拶を交わす習慣をつけ、安心のスタートを切りましょう。

【解説】パーテーションで仕切られた空間は、家族だけの安心できる場所。トイレや更衣室と同様に、照明を明るくし、見守りやすい環境を整えてプライバシーと安全を守ります。通路は荷物を置かずに広く保ち、見通しを良くすることが、自然な監視につながり、安全を確保します。女性や子ども、高齢者など、配慮が必要な方への視点も忘れずに。

### 3. みんなの目が見守る“安心”

「おはよう」「お疲れ様」。そんな何気ない声かけが、一番の防犯になります。



互いに気かけ合うことで、「見えやすい」避難所になります。子どもたちの標語もお互いに気を使い合う雰囲気を高めます。みんなで安全安心な場所づくりを心がけましょう。

P3

### 4.自分たちでもつくる見守りの目

自分たちでのパトロールは効果的です。警察官が見回りに来たときには、居住者に姿をみせてもらいましょう。

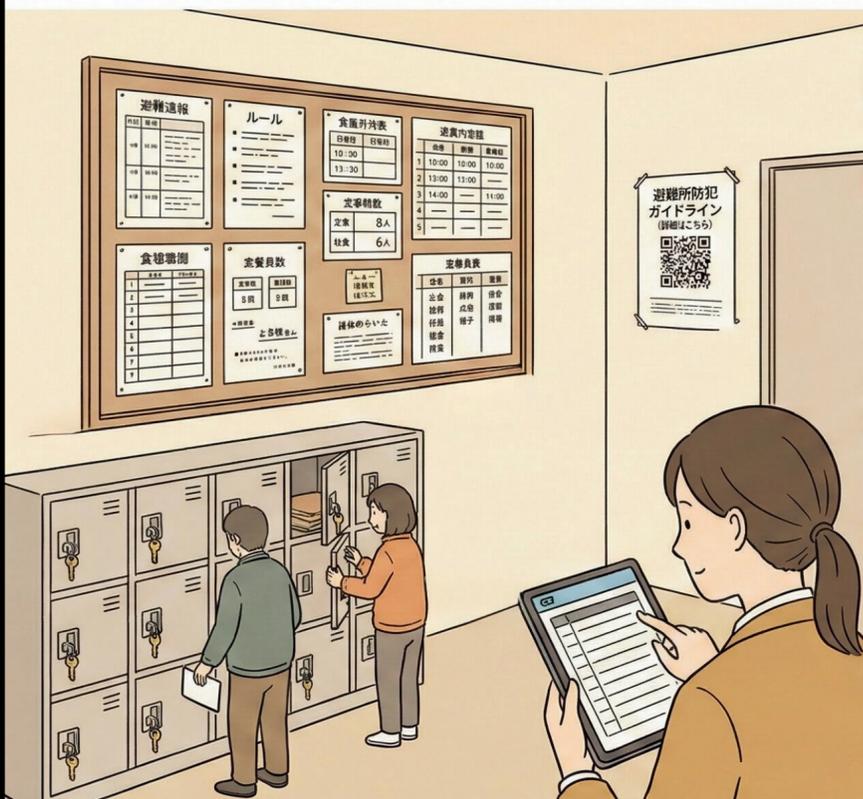


自分たちで敷地内外でパトロールを行い、外部の侵入者が「入りにくい」場所にします。また、困った時の「相談の手順」を決め、警察や役所と協力体制を作りましょう。

【解説】挨拶や声かけは、「自然な見守りの目」になり、犯罪者を寄せ付けない一番の力になります。子どもたちが描いた元気な標語も、お互いを気遣い合う大切なきっかけになります。コミュニティがしっかりできれば、全員の「縄張り意識」が高まり、「入りにくく、見えやすい」避難所になります。

【解説】避難所生活をしていても、自分たちで避難所の中や周りをパトロールすることは、防犯上の「縄張り意識」や「当事者意識」を高めるうえで大切です。警察官が巡回で来たときには住民に姿を見てもらいましょう。何か困ったことが起きたときに、「対応の手順」を決め、警察や役所の人とも協力して、みんなで安心を支える仕組みをつくりましょう。

### 5. 情報の整理が安心につながる



入所者情報はアプリやエクセル等を活用するなどを通じて、「管理意識」を強化しましょう。防犯ルールを決めて掲示板で知らせましょう。貴重品は自己管理が基本ですが、ロッカーがあれば活用を。

P5

### 6. みんなでつくる、地域の力



避難所は、みんなで運営する場所です。炊き出しや掃除など「自分たちの場所は自分たちで守る」という「縄張り意識・当事者意識」が、犯罪を防ぐ力になります。協力して良い状態を保ち、安全な場所をつくりましょう。

P6

【解説】難所の防犯ルールを具体的に決めて、掲示板などでみんなに知らせましょう。貴重品は自分で管理するのが基本ですが、もしロッカーなどの盗難防止設備があれば使いましょう。入所者の管理や情報の共有には、アプリやエクセルなどの便利な道具も上手に使うと、効率よく正確に管理できます。正しい情報をみんなで共有することが、安心の第一歩です

【解説】避難所は、みんなで協力して運営する場所です。炊き出し、掃除、見守りなど、一人ひとりが「自分たちの場所は自分たちで守る」という気持ちを持つことが、悪いことを許さない強い力になります。みんなで協力して、良い状態を保とうという気持ちが、温かく、安全な居場所をつくりまします。力を合わせて、安心な避難所をつくりましょう